

## ❀❀❀ 平成 29 年度 社内ケアマネジャー定例研修が終了しました ❀❀❀

昨年度社内ケアマネジャー定例研修では

「実践！ケアマネジメント“力”の向上を目指して」を掲げ  
大テーマ副題を「状態変化と終末期ケアマネジメントを学ぶ」としました。

そして、1年間を3クールに分け、大テーマに向かうための中テーマを設定しました。

第一クール「目指せ！ケアマネジメント“力”向上」と題し、ケアマネジャーが行う  
ケアマネジメントの《いろは》から学び直しを行いました。

インテーク⇒アセスメント⇒プラン作成といったP D C Aサイクルの一部を掘り下げ  
日頃のマネジメント業務の不確か部分の洗い出しを行いました。

第二クールは「虐待防止と苦情処理」について、自施設の現状を踏まえケアマネジャーと  
して利用者の尊厳と権利を護るために何をすべきか？を考えました。


最近では、高齢者虐待“事件”がニュースとなり報道されることも増え、高齢者介護に  
携わる者として決して他人事とせず、先ず自省し、ケアマネジャーとしての影響力を  
考えることが必要だと考えました。

第三クールは「終末期」におけるケアマネジメントを学ぶ機会としました。


「終末期」「看取り」といった言葉の意味や定義から学ぶこととしました。これらについて  
実に曖昧な定義となっていることがわかりました。結果的には、ご利用者様の生活の  
継続性を図る上で改めて介護の連続性の大切さ、尊厳保持、プライバシー保護の重要性を  
学び直す機会ともなりました。

平成 29 年度は、高齢者虐待や看取りといった高齢者支援に携わる者としては大変重い  
テーマに臨みました。特に「終末期」「看取り」といったテーマでは、“尊厳”や“命”に  
直接的に関わるだけに敢えて結論として出さず、ケアマネジャーとしての資質向上の  
材料としたところです。

### ケアマネジャー研修、終講後の声



最期をどのように  
迎えるか？  
本人・家族と一緒に  
考える問題だと  
わかった



虐待を疑われると  
今まで培った  
家族との信頼関係も  
壊れてしまう

